



【永田町群像 特別インタビュー】民主党の長島昭久元防衛副大臣 外交安保「超党派で価値観共有」 日米関係「受け身の時代終わった」

2014.8.22 05:00

自民党の河井克行前衆院外務委員長からのお誘いで、「日米同盟コーカス」という超党派の議員連盟に入りました。外交や安全保障政策について共通の価値観をもつというのは自然なことです。米国では共和党と民主党が別々に外交をやるという感覚はありません。

7月下旬にはコーカスとして河井さんと訪米しました。米国では当然ながら歓迎されたよね。日本でも党派を超えて日米同盟が支持されているんだということを示すことになるからね。日米同盟を安定化させるために、できるだけ幅広い国民の支持が必要だというのは常識ですよ。

私はワシントンのシンクタンクでの講演で、集団的自衛権の行使容認をめぐる閣議決定について「党派を超えて是認されるべきだ」と発言しました。日本国内ではわが党の海江田万里代表といることが違うということで波紋を呼んだようですが、昔からの持論をそのまま言っただけのことです。

集団的自衛権の行使容認は憲法との関係があるから、憲法を改正して進めなければいけない部分と、憲法の枠内でやれる部分とのせめぎ合いのようなものです。今回の閣議決定は、日米同盟を強化、深化させる大きな一歩だったと思います。

これまでの日米関係においては、日本は受け身で対応していればよい時代もありました。しかし、もはやそういう時代ではありません。アジア太平洋地域の平和と安定のために、自ら積極的に関与していく姿勢が必要です。その一番の下地が日米同盟ですよ。同盟強化の障害になっているものがあるとすれば、取り除かなければいけない。専守防衛とか憲法の平和主義は絶対に守らなければならないのは当然のことです。

集団的自衛権の行使容認をめぐり、来年の通常国会で始まるといわれている具体的な法案審議では、是々非々の姿勢で臨もうと考えています。最初から全面的に反対するなんてことはあり得ない。有事法制の際の議論のように、多くの党が賛成する方向にもっていくのが望ましいですね。

ただ、「拙速だ」とか「手続きを守れ」とか、安倍晋三政権のやり方に不満を持っている国民は多い。そこは謙虚に受け止めて、議論の土台をきちんと作るようにしてもらいたい。

ワシントンの政府高官や議会関係者は、もちろん集団的自衛権の行使容認を歓迎している。ただ、日朝交渉と日露関係については懸念も表明されました。

北朝鮮に関しては、国際社会で北朝鮮を孤立させて核とミサイルの問題を解決しようとしてい

るのに、日本だけ抜け駆けのように独自の制裁解除などをしてもらっては困る、という意見でした。これについては、「核・ミサイル問題に対する国際社会の制裁ではなく、拉致問題を解決するための付加的な制裁の一部解除だ」と説明しています。

日露関係は、ウクライナでのマレーシア航空機撃墜事件で対応は非常に難しくなりました。北方領土の問題もあるからね。

民主党内には集団的自衛権をめぐる今回の閣議決定に真っ向から反対する意見もあります。だけど、本当は人口減少とか財政破綻とか地方再生とかに特化して、徹底的にそういう分野で新機軸を打ち立てて安倍政権と対決すればいいんですよ。海江田さんも不得意な外交や安保政策に手を出す必要はない。

海江田さんは7月31日の両院議員懇談会で「民主党の存在意義は何か。それは野党第一党であることだ」といっていたが、どこか違和感がある。やはり、民主党の存在意義は「政権を担った経験をもつ野党だ」ということでしょう。

われわれが政権を担った3年3カ月間は理想を掲げながら現実と向き合い、非常に苦労した。それが良い意味で肥やしになっている。だから、安全保障でもエネルギーでも社会保障でも、ほかのユートピア的な野党とは違い、重みのある発言ができる。そこに国民は期待しているんじゃないのかな。

米国でも英国でも、政権交代が起きるときは政権党がつまずくんですよ。そうでないと、なかなか政権交代は起きない。だけど、そこで基本的な政策に大きな開きがあったら、政権交代なんてできない。似通っているからこそ、取って代われるんですよ。「日米同盟コーカス」が、党派を超えて共通の価値観をつくっていく土壌になればいいと思います。（力武崇樹）

◇

ながしま・あきひさ 昭和37年2月、横浜市生まれ。52歳。慶大院、米ジョンズ・ホプキンス大院修了。石原伸晃衆院議員秘書を経て衆院議員に。当選4回。防衛政務官、防衛副大臣などを歴任。東京21区。長島氏の公式ホームページのURLは<http://www.nagashima21.net/>